

## 生化学検査について

検査項目	検査法 単位	説 明
A L T (GPT)	UV method IU/L	肝臓に最も多く含まれる酵素です。肝細胞が破壊されると血液中に流れ出すので、急性肝炎で最も強く上昇し、慢性肝炎や脂肪肝(肥満)などでも上昇します。激しい運動の後に一過性的上昇がみられることがあります。
A S T (GOT)	UV method IU/L	心筋や肝臓に多く含まれ、骨格筋、腎臓、血球にも認められる酵素です。心筋梗塞や急性肝炎、アルコール性肝障害などで上昇します。その他運動後に一過性的上昇がみられることがあります。
$\gamma$ -GTP	Rate Assay IU/L	肝、胆道、膵、腎などに多く含まれる酵素です。上昇する疾患は閉塞性黄疸、肝炎、アルコール性肝障害などです。病気がなくても長期飲酒者では上昇することが多く1カ月位禁酒するとある程度正常化します。
総 蛋 白 TP	Buret method g/dL	血清中には80種類以上の蛋白が含まれ、種々の機能を持ち、生命維持に大きな役割を果たします。その総量を総蛋白として測定しています。
アルブミン ALB	BCG method g/dL	血清蛋白の50%以上を占めるアルブミンは、病気などで栄養が悪くなると減少するため、健康診断のスクリーニングとして大きな意味があります。
アルブミン/グロブリン比 A/G		血清蛋白はアルブミン(A)とグロブリン(G)に分けられ、その比率は健康な人では一定の範囲にありますが、病気によってはその比率が変化(主として減少)してきます。
コレステロール CHOL	Enzyme-Assay mg/dL	血清脂質の一つで、一般に脂肪の多い食事を続けていると上昇します。また肝臓などで作られ、肝、胆道、腎、甲状腺の病気でその値が上下することがあります。血清コレステロールが多くなると動脈硬化を起こしやすいとされています。

## 血球計数検査について

検査項目	単 位	説 明
① 赤 血 球 数 RBC	$\times 10^4/\mu\text{L}$	赤血球は血液の主な細胞成分で、酸素を肺から各組織へ運ぶ働きを持っています。
② ヘモグロビン量 Hb	g/dL	血液の赤い色は赤血球に含まれるヘモグロビン(色素)によるもので、赤血球の働きを中心となっています。
③ ヘマトクリット量 Ht	%	ヘマトクリット値は一定の血液量に対する赤血球の割合(容積)をパーセントで表したものです。
④ 平均赤血球容積 MCV	fL	赤血球1個の平均的容積、すなわち赤血球の大きさの指標となるもので、赤血球数とヘマトクリット値から算出したものです。
⑤ 平均赤血球ヘモグロビン量 MCH	pg	赤血球1個に含まれるヘモグロビン量を平均的に表したもので、赤血球数とヘモグロビン量から算出したものです。
⑥ 平均赤血球ヘモグロビン濃度 MCHC	%	赤血球の一定容積に対するヘモグロビン量の比をパーセントで表したもので、ヘモグロビン量とヘマトクリット値から算出したものです。
⑦ 白 血 球 数 WBC	$\times 10^3/\mu\text{L}$	白血球は細菌などを貪食し、免疫情報を伝達し、さらに免疫能を発現して生体防衛にかかわっています。細菌感染症があると一般に白血球数は増加しますが、ウイルス感染症の場合はかえって減少することもあります。
⑧ 血 小 板 数 PLT	$\times 10^4/\mu\text{L}$	血小板は出血を止めるための重要な働きを持ち、この値が極端に減少すると出血を起こしやすくなります。

※検査項目①～③の値は貧血の有無を知る目安となり、貧血の場合、検査項目④～⑥の値がその種類の判定の目安となります。これらの検査項目で、あなたが健康であるか否かを判断することはできません。